

# エーザイの成長戦略における知的財産部門の貢献実績

## エーザイの知的財産部門の役割と責任範囲

エーザイの知的財産部門は、同社の hhc 理念（ヒューマン・ヘルスケア）を基盤とし、患者様とご家族に最大のベネフィットを提供するという使命を担っています。そのために、研究開発から販売に至るすべての過程において、知的財産の保護と活用を推進することで、企業活動をサポートしています。

知的財産部門の主な役割と責任範囲は以下の通りです。

- **研究開発段階における知的財産の創出・取得・保護:**
  - 創薬部門と緊密に連携し、新規化合物、スクリーニング方法、バイオマーカー測定方法など、幅広い範囲で特許出願を行い、権利化を推進しています。<sup>1</sup>
  - 特許ポートフォリオマネジメントを通じて、最適な知的財産戦略を策定し、研究開発の成果を最大限に保護することに注力しています。<sup>1</sup>
  - 他社特許調査を綿密に行い、第三者の権利を尊重するとともに、自社の研究開発活動におけるリスクを回避しています。<sup>1</sup>
- **製品のブランド戦略:**
  - すべての医薬品について、患者様に支持される商品名を開発し、商標権によって保護しています。<sup>1</sup>
  - マーケティング部門と連携し、グローバルな視点に立ったブランド戦略を展開しています。<sup>1</sup>
- **知的財産に関する契約交渉・紛争処理:**
  - ライセンス契約、共同研究開発契約など、知的財産に関する契約交渉や紛争処理を行っています。
  - 知的財産権侵害訴訟など、法的紛争に対応しています。
- **知的財産に関する情報提供・教育:**
  - 社内における知的財産に関する啓蒙活動を行い、社員の意識向上を図っています。
  - 知的財産に関する研修プログラムを開発し、社員の専門性を向上させています。

## エーザイの知的財産戦略の概要

エーザイの知的財産戦略は、hhc 理念に基づき、患者様とご家族のベネフィット向上に貢献することを目的としています。<sup>1</sup> 医薬品を開発・販売する過程で発生する知的財産を保護・強化し、有効活用することに重点を置いています。<sup>1</sup>

具体的な戦略は以下の通りです。

- **創薬活動と知的財産戦略の連携:**
  - 創薬の初期段階から知的財産部門が関与し、特許戦略を検討することで、研究開発の効率

- 化を図っています。
- 物質特許に加え、用途・製法・製剤・中間体など、幅広い範囲で特許出願を行い、権利化を推進しています。<sup>1</sup>
  - 特許ポートフォリオマネジメントを通じて、最適な知的財産戦略を策定し、研究開発の成果を最大限に保護しています。<sup>1</sup>
  - **グローバルな知的財産戦略:**
    - 国内だけでなく、海外における特許出願、権利化、権利維持にも積極的に取り組んでいます。
    - 各国の法制度や市場動向を踏まえ、最適な知的財産戦略を展開しています。
  - **オープンイノベーション:**
    - 大学、研究機関、他企業との共同研究開発を積極的に推進し、外部の知見や技術を導入することで、イノベーションを加速させています。<sup>2</sup>
    - 特許のライセンス活動を通じて、自社の技術を外部に提供することで、社会貢献にも取り組んでいます。<sup>1</sup>
  - **「エバーグリーン」戦略:**
    - 研究開発型の製薬企業にとって、特許の有効期間を最大限に活用することは、研究開発投資を回収し、新たな医薬品開発を継続するために不可欠です。<sup>2</sup> エーザイは、特許期間満了後も、医薬品の改良や新規用途の開発などを通じて、特許保護を延長する「エバーグリーン」戦略を積極的に展開しています。<sup>2</sup>

## エーザイの主要製品・技術と関連する知的財産

エーザイは、神経領域、がん領域、グローバルヘルス領域を中心に、多様な医薬品を開発・販売しています。これらの医薬品や関連技術は、特許権、商標権など、様々な知的財産権によって保護されています。

主な製品・技術と関連する知的財産は以下の通りです。

製品・技術	説明	関連する知的財産
アリセプト	アルツハイマー型認知症治療剤。世界で初めて上市されたコリンエステラーゼ阻害薬であり、長期にわたり多くの患者さんに使用され	物質特許、製剤特許、用途特許など、多数の特許権によって保護されています。

製品・技術	説明	関連する知的財産
	ています。	
パリエット	プロトンポンプ阻害剤。消化性潰瘍や逆流性食道炎などの治療に用いられます。	物質特許、製剤特許、用途特許など、多数の特許権によって保護されています。
ハラヴェン	がん治療剤。エリ布林メシル酸塩を有効成分とする、新規の微小管阻害剤です。	物質特許、製剤特許、用途特許など、多数の特許権によって保護されています。
レンビマ	がん治療剤。レンバチニブメシル酸塩を有効成分とする、経口マルチキナーゼ阻害剤です。	物質特許、製剤特許、用途特許など、多数の特許権によって保護されています。
スクリーニング方法	創薬ターゲットを探索するための技術。効率的な創薬研究に貢献しています。	特許権によって保護されています。
バイオマーカー測定方法	疾患の診断や治療効果の判定に用いる技術。個別化医療の実現に貢献しています。	特許権によって保護されています。

## エーザイの知的財産活動による収益への貢献

エーザイは、特許権そのもののライセンス料から収益を上げるというよりも、事業収益を確保する手段としての特許化に重点を置いています。<sup>1</sup> 自社開発した医薬品を特許権によって保護することで、ジェネリック医薬品の参入を抑制し、長期にわたって安定的な収益を確保することを目指しています。<sup>3</sup>

例えば、アリセプトは、特許権によって保護されていた期間に、世界中で多くの患者様に使用され、エーザイの収益に大きく貢献しました。[要出典] 特許期間満了後には、ジェネリック医薬品が参入しましたが、エーザイは、後発品対策として、アリセプトの徐放性製剤を開発し、新たな特許を取得することで、収益の維持に努めています。[要出典]

また、エーザイは、医薬品アクセスが困難な地域で特異に発生する病気の治療薬については、積極的にライセンス活動を実施しています。<sup>1</sup>特に、顧みられない熱帯病（NTDs）に関して、特許を外部に開放し、広い範囲のパートナー機関と連携することで、医薬品開発を促進し、社会貢献にも取り組んでいます。<sup>1</sup>

さらに、エーザイは、新興国における医薬品アクセス向上のため、アフォーダブルプライシングやティアードプライシングなどの患者様支援プログラムを実施しています。<sup>2</sup>これらのプログラムを通じて、エーザイは、収益の確保と社会貢献の両立を目指しています。

## エーザイの知的財産活動による競争優位性の確保

エーザイは、知的財産活動を戦略的に展開することで、競争優位性を確保しています。

- **新規化合物の特許取得:** 新規化合物の特許を取得することで、競合他社に先駆けて新薬を上市し、市場シェアを獲得することができます。
- **用途特許の取得:** 既存の医薬品の新規用途に関する特許を取得することで、製品ライフサイクルを延長し、競争力を維持することができます。
- **製剤特許の取得:** 医薬品の製剤技術に関する特許を取得することで、服用方法の改善や副作用の軽減などを実現し、製品の差別化を図ることができます。
- **特許ポートフォリオの構築:** 多様な特許権を組み合わせた特許ポートフォリオを構築することで、競合他社による模倣を困難にし、競争優位性を強化することができます。
- **オープンイノベーション:** 大学、研究機関、他企業との共同研究開発を通じて、外部の知見や技術を導入することで、競争力を強化することができます。
- **医薬品アクセスの改善:** 感染症、顧みられない熱帯病、妊産婦および新生児の疾患など、医薬品市場が未成熟な国や医薬品生産体制が整っていない国の患者様に対して、特許製品を供給するため、エーザイは、適格な第三者に対し、通常実施権を与えることを検討しています。<sup>2</sup>これは、エーザイが、知的財産権を独占的に行使するのではなく、社会全体の利益を考慮した上で、医薬品アクセス向上に貢献しようという姿勢を示すものです。

これらの知的財産活動を通じて、エーザイは、競争の激しい製薬業界において、独自の地位を築いています。<sup>2</sup>さらに、<sup>4</sup>では、競争力の高い知的資本の獲得・保有が企業価値に与える影響について分析しており、エーザイの知的財産戦略が長期的な企業価値向上に貢献していることを示唆しています。

## エーザイの知的財産部門の組織体制と人材育成

エーザイの知的財産部は、本社組織の一つとして位置付けられています。<sup>5</sup>部門内には、特許、商標、意匠、著作権など、それぞれの専門分野を担当するチームがあり、連携して業務を行っています。<sup>1</sup>また、国内外に知的財産担当者を配置し、グローバルな知的財産戦略を推進しています。<sup>1</sup>

人材育成においては、社員の専門性向上と hhc 理念の浸透を重視しています。<sup>6</sup>具体的な取り組みは以下の通りです。

- **専門知識の習得:**

- 新入社員研修、階層別研修、専門研修など、様々な研修プログラムを通じて、特許法、商標法、意匠法、著作権法などの専門知識を習得することができます。<sup>6</sup>
- 弁理士、弁護士などの資格取得を支援しています。
- **hhc 理念の浸透:**
  - 患者様とご家族とともに時間を過ごす「共同化」やオンラインでの知の交流セッションなどを通じて、hhc 理念を体得することができます。<sup>6</sup>
  - 倫理研修、コンプライアンス研修などを通じて、企業倫理や法令遵守の意識を高めています。
- **キャリアパス:**
  - 知的財産部門内でのジョブローテーション、海外勤務、他部門への異動など、多様なキャリアパスを用意しています。
  - 社員一人ひとりのキャリア目標を支援する制度を整備しています。
- **人材エンゲージメントの向上:**
  - エーザイは、ピープルアナリティクスを活用し、社員のエンゲージメントを可視化することで、人材育成戦略の効果を測定しています。<sup>7</sup>このようなデータに基づいた人材育成は、知的財産部門においても、社員のモチベーション向上やイノベーション促進に貢献すると考えられます。

これらの取り組みを通じて、エーザイは、高い専門性と倫理観を備えた知的財産人材を育成し、持続的な成長を支えています。

## エーザイの知的財産活動における課題と今後の展望

エーザイの知的財産活動における課題としては、以下の点が挙げられます。

- **グローバル化の進展:** 医薬品市場のグローバル化が加速する中、各国・地域の法制度や商慣習に対応した知的財産戦略の構築が求められます。
- **技術革新:** バイオテクノロジー、AIなどの技術革新が加速する中、新たな技術に対応した知的財産戦略の策定が必要となります。
- **人材の確保:** 知的財産に関する専門知識と経験を有する人材の確保が課題となっています。
- **継続的な学習:** 知的財産業務は、法律をベースとした専門業務であるため、世界各国の特許法改正や特許制度の変更、新しい裁判例による法解釈の変更など、常に知識をアップデートしていく必要があります。<sup>3</sup>また、研究成果や発明を理解するために、新しい創薬技術を含め、医薬品の研究開発に関わる技術的な知識も必要です。<sup>3</sup>
- **プレッシャー:** 研究者が見出した成果を貴重な社の資産として取り扱い、将来のビジネスに影響を与える知財業務には大きなプレッシャーが伴います。<sup>3</sup>

これらの課題に対応するため、エーザイは、以下の取り組みを強化していくと考えられます。

- **グローバルな知的財産体制の強化:** 各国・地域の法制度や市場動向に関する情報収集を強化し、グローバルな知的財産戦略を策定していきます。
- **新技術への対応:** バイオテクノロジー、AIなどの新技術に関する専門知識を習得し、新たな知的財産戦略を策定していきます。
- **人材育成の強化:** 知的財産に関する専門知識と経験を有する人材を育成するため、研修プログラムの充実や資格取得支援などを強化していきます。

- **オープンイノベーションの推進:** 大学、研究機関、他企業との連携を強化し、外部の知見や技術を積極的に導入することで、イノベーションを加速させていきます。

## 製薬業界における知的財産部門の重要性とエーザイの取り組みの比較

製薬業界は、研究開発に多大な費用と時間を要し、特許権によって新薬を保護することが、事業の成功に不可欠です。そのため、知的財産部門は、製薬企業にとって非常に重要な役割を担っています。<sup>8</sup>

エーザイは、hhc 理念に基づき、患者様とそのご家族のベネフィット向上を第一に考えた知的財産戦略を展開しています。<sup>9</sup>これは、特許権を収益源として捉えるのではなく、患者様に新薬を安定的に提供するための手段として捉えていることを意味します。<sup>1</sup>

特許制度は、新薬の開発を促進し、患者様へのアクセスを向上させる役割を担っています。しかし、一方で、特許権によって医薬品価格が高騰し、アクセスが制限されるという批判もあります。<sup>2</sup>エーザイは、このような批判に対し、特許制度による技術の早期公開がなければ新たな医薬品の開発は停滞し、結果として新薬へのアクセスが阻害されると反論しています。<sup>2</sup>また、貧困層の患者様への医薬品アクセス上の課題については、新興国で実施しているアフォーダブルプライシング、ティアードプライシング等の患者様支援プログラムを通じて改善していくとしています。<sup>2</sup>

具体的には、以下の点が挙げられます。

- **創薬活動との連携:** 知的財産部門が創薬の初期段階から関与し、特許戦略を検討することで、研究開発の効率化を図っています。
- **グローバルな知的財産戦略:** 国内だけでなく、海外における特許出願、権利化、権利維持にも積極的に取り組んでいます。
- **オープンイノベーション:** 大学、研究機関、他企業との共同研究開発を積極的に推進し、外部の知見や技術を導入することで、イノベーションを加速させています。
- **人材育成:** 知的財産に関する専門知識と経験を有する人材を育成するため、研修プログラムの充実や資格取得支援などを強化しています。

これらの取り組みは、他の製薬企業と比較しても、先進的なものと言えるでしょう。<sup>10</sup>エーザイは、知的財産部門を戦略的に活用することで、競争優位性を確保し、持続的な成長を遂げていると言えるでしょう。

## 結論

エーザイの知的財産部門は、同社の hhc 理念に基づき、患者様とそのご家族のベネフィット向上に貢献するため、知的財産の保護と活用を通じて、研究開発から販売に至るすべての過程をサポートしています。特許権を収益源として捉えるのではなく、患者様に新薬を安定的に提供するための手段として捉え、創薬活動と連携した戦略的な知的財産活動を行っています。

エーザイは、知的財産部門を戦略的に活用することで、競争優位性を確保し、神経領域、がん領域、グローバルヘルス領域を中心に、多様な医薬品を開発・販売しています。また、グローバルな知的財産戦略、オープンイノベーション、人材育成にも積極的に取り組んでいます。

製薬業界における知的財産部門の重要性が高まる中、エーザイは、hhc 理念に基づいた先進的な知的財産戦略を展開することで、業界をリードしています。今後も、グローバル化、技術革新、人材確保などの課題に対応しながら、知的財産活動を通じて、患者様とご家族への貢献、そして持続的な企業成長を目指していくと考えられます。

## 引用文献

1. 知的財産への取り組み | ポリシー・ガイドライン | エーザイ株式会社, 1月 10, 2025 にアクセス、[https://www.eisai.co.jp/innovation/research/policies\\_guidelines/ip/index.html](https://www.eisai.co.jp/innovation/research/policies_guidelines/ip/index.html)
2. 知的財産権と医薬品アクセス | 医薬品アクセス向上に向けた研究開発 | エーザイ株式会社, 1月 10, 2025 にアクセス、<https://www.eisai.co.jp/sustainability/atm/innovation/intellectual-property/index.html>
3. hhc 理念に共感 障がい者の目線と知的財産のプロの目線でエーザイ ..., 1月 10, 2025 にアクセス、<https://www.talent-book.jp/eisai/stories/53620>
4. 知的資本の PBR への遅延浸透効果 : , 1月 10, 2025 にアクセス、<https://www.camri.or.jp/files/libs/1748/202203021223397835.pdf>
5. エーザイ株式会社 - 日本知的財産協会, 1月 10, 2025 にアクセス、[http://www.jipa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2012\\_10\\_1501.pdf](http://www.jipa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2012_10_1501.pdf)
6. 人材育成 | 従業員との関わり - エーザイ株式会社, 1月 10, 2025 にアクセス、<https://www.eisai.co.jp/sustainability/society/employee/training/index.html>
7. エーザイ「知識創造理論とピープルアナリティクスが支える企業理念の実現とキャリアオーナーシップ」, 1月 10, 2025 にアクセス、<https://co-consortium.persol-career.co.jp/article/2023/02/17/index.html>
8. 知的財産戦略 | 研究開発 | 塩野義製薬, 1月 10, 2025 にアクセス、<https://www.shionogi.com/jp/ja/innovation/IP-strategy.html>
9. エーザイ株式会社, 1月 10, 2025 にアクセス、<https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20231215/20231207500347.pdf>
10. 知的財産戦略 - 小野薬品工業株式会社, 1月 10, 2025 にアクセス、[https://www.ono-pharma.com/sites/default/files/ja/ir/library/integrated\\_report/2022\\_55-56.pdf](https://www.ono-pharma.com/sites/default/files/ja/ir/library/integrated_report/2022_55-56.pdf)